

しゃきょう

令和2年7月1日発行 第431号

発行 八丈町社会福祉協議会

八丈町三根2番地

TEL 04996-2-2609

FAX 04996-2-4655

心配ごと相談 TEL2-5000

Eメール info@8jo-syakyo.or.jp

HP <http://8jo-syakyo.or.jp/>



社協では令和2年度～6年度に掛けて、第3次みつわ計画に基づき事業を行っていきます。

八丈町子どもの学習・生活支援事業のご案内

八丈町の子どもたちを対象とした『八丈町子どもの学習・生活支援事業』が令和2年度よりスタートしました。子どもたちが安心して気軽に集まることのできる「居場所」を提供し、支援員から個別の学習指導・生活支援等が無料で受けられます。

本事業では子どもの学力向上だけではなく、心身の不調や不安、生活困窮やひとり親の困りごとなど、子どもと保護者の双方から子育て世帯の暮らしに関する様々な相談に応じます。不安や悩みはひとりで抱えず、私たちに聞かせてください。

学習教室の開催

- 場所（対象者） 水曜日：三原中学校図書室（三原中学校1～3年生）
土曜日：保健福祉センター2階（各小学校1年生～高校3年生）
※9月以降の水曜日は富士中学校・大賀郷中学校でも開催を予定しています。
- 費用 利用料・教材費 無料
- 定員 各教室20名程度（登録制・調整有）
- 申込み方法 必要事項を記入し申込書を社協もしくは支援員へ提出
- ・宿題などを持ち寄って、自分にあったペースで勉強します。
 - ・教職経験者等が個別指導、必要に応じて教材も用意します。
 - ・勉強だけでなく、みんなで楽しめるイベントを実施します。
- ※教室の開催時期は社協ホームページでご案内します。 (URL)<http://8jo-syakyo.or.jp/>



相談支援

電話、メール、家庭訪問による支援を行います。

- ・進学や就職など進路に関する悩みや、不登校・ひきこもりなど子育てに関する相談に応じます。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響による失業など、子育て世代が抱える様々な問題の相談に応じ、生活を支える支援をご案内します。

お問い合わせ

申込みや事業に関するお問い合わせは以下の担当者にご連絡ください。

TEL：2-2609

Mail：kodomo@8jo-syakyo.or.jp

担当：沖山絢子



平成31年度社会福祉協議会決算報告

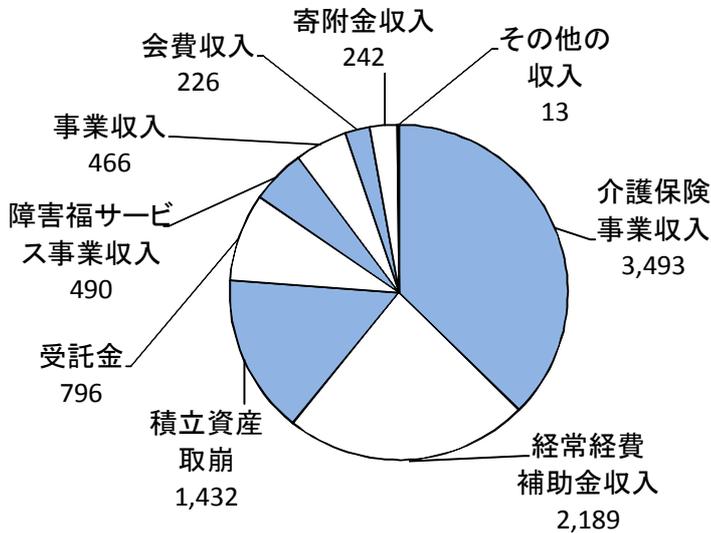
平成31年度の収支決算についてご報告をいたします。社協には大きく分けて、「法人運営」「地域福祉」「受託事業」「居宅介護」「応急小口資金貸付」「歳末たすけあい」の6つの事業があります。今回もそれらの全てを合わせた法人全体の収支をご説明いたします。

31年度は介護収入が増加

左のグラフは、万円単位で収支を表示したものです。収入に

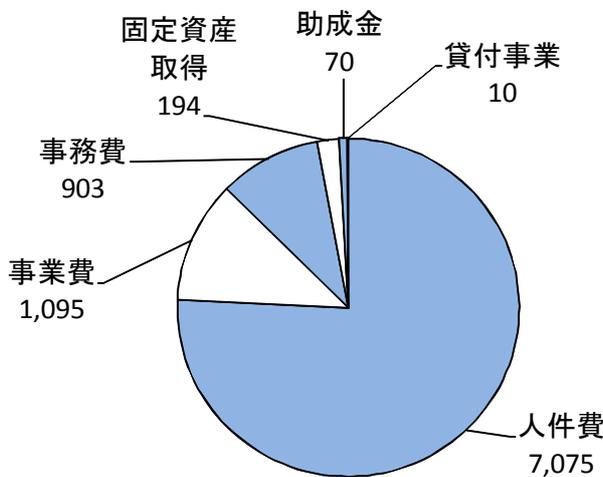
収入の部 (9,347万円)

[単位:万円]



支出の部 (9,347万円)

[単位:万円]



については、グラフからも分かる通り、約6割が介護保険や障がい福祉サービスなどの居宅介護事業からのもので、社協の大きな財源となっております。これらの事業では、ここ数年収入が大幅に減少しておりますが、31年度は前年比で介護保険が約560万円の増収、障がい福祉サービスが約175万円の減収となり、トータルでは385万円の増収となり久しぶり前年の収入を上回りました。しかし、これらの収入では全

体の支出を賄えない為、積立金を取り崩して、事業費等に利用しています。また、会費や寄附金は移送サービス・給食サービス等の地域福祉事業の財源として使わせていただいております。次に支出については全体の約75%が人件費となっておりますが、31年度は職員の退職や育児休業等により前年比で減額となっております。その財源としては居宅介護事業収入をはじめとして、八丈町

からの補助金、積立金の取崩、東京都社協等からの受託金、地域福祉事業の収入などです。事業費は、主に地域福祉事業を行う為の費用で、事務費は事業を行うに当たってそれを支える事務に関する費用です。そして、助成金は島内で福祉関係の活動をしている7つの団体に交付した助成額、貸付事業は応急小口資金にて貸し付けた金額となっております。31年度も概ね例年同様の決算となりました。(菊池孔介)

寄附者一覧

ご寄附いただきましたまして、誠にありがとうございました。皆様からいただきましたご寄附は、高齢者や障がい者の方々の在宅福祉サービス等、島の福祉のために大切に使用させていただきます。

沖山 道 殿 (末吉)

25,000円

特別定額給付金の一部を島の福祉のために

山下榮美子さん、百歳お祝い報告

社協では、百歳のお誕生日を迎えた方を対象に「百歳お祝い事業」を行っています。この事業はご自宅等にお伺いし、賞状やお祝い金を贈呈するものです。5月に百歳になられた方がいましたので、ご報告いたします。

5月4日、樫立在住の山下榮美子さんがめでたく百歳のお誕生日を迎えられました。社協では、新型コロナウイルス感染症の予防の為、密にならないようにして5月27日にご自宅に伺い、賞状とお祝い金をお渡しいたしました。



お元氣な榮美子さん
当日は沢山話してくれました！

榮美子さんは、八丈島大賀郷の西見で生まれました。小学校卒業して中学校と高校には行かず、家のお手伝いをしていました。戦時中に6年くらい東京にいて、終戦後八丈島に戻られ、28歳の時に旦那さんと結婚されました。

お仕事は、蚕を飼っていて種繭を作り本土の方に送っていたことと、畑で里芋とさつまいもと麦など作っていました。

普段の生活は、1人で庭の手入れや掃除をして、食べたい物は榮美子さんが作っており好きな食べ物、油多めの豚肉だそうです。楽しみなことは、アイススケートの羽生結弦選手が大好きでアイススケートを欠かさず見たいです。来年に行われる東京オリンピックを見たいとのことでした。

これからも末永くお元氣にお過ごしください。百歳おめでとうございます。(中島潮音)

第3次みつわ計画の推進について

第3次みつわ計画の目指すビジョンの一つに「適切に個人情報を活用できる社会」というものがあります。

近年、日本では様々な災害が多発していますが、その度に話題になるのが「個人情報の壁」です。平成17年に「個人情報の保護に関する法律」が施行されましたが、これを機に「個人情報」という言葉が一気に広がりました。

「個人情報」について関心が高まったのはとても良い事ですが、その反面過剰な個人情報保護の傾向が見られるようになりました。行政や事業所は個人情報の流出に関して厳しい意見にさらされる事が多いためか、個人情報の公開に慎重になっていきました。

しかし、災害時にはそうした個人情報の共有がとても重要になってきます。情報の共有は支援する側にとって重要なのは勿論ですが、

それは結果的に支援される本人の利益に繋がります。

今回の新型コロナウイルス感染症による特別定額給付金についても、マイナンバーが浸透していればもっと迅速に給付の手続きが進んだとも言われています。しかし、「情報の流出」や「国からの監視」などの心配を理由に浸透していきたくありません。

個人情報の保護は、とても大切なことです。が、何かの際に情報を適切に活用できることがこれからは益々求められると思います。そして、その為には住民の個人情報に関する認識の変革も重要になってきます。

第3次みつわ計画では「適切に取得し、適切に管理し、適切に活用できる個人情報」を目指して、住民の皆様や関係者の方々と議論を重ねていきたいと思っております。(菊池孔介)

7月のサロン中止について

7月に予定しておりましたふれあいサロンですが、新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、中止いたします。

5月末に緊急事態宣言が解除され、八丈町でも施設が順次開放されてきましたが、安全にサロンが実施できるよう、8月の再開に向けて準備をしていきますので、もしばらくお待ちください。よろしくお願ひします。

ボランティアアコーナーだより



政府支給の布マスクを受け付けています

社協では、政府から支給された布マスクを受け付けています。



未開封でお願いします！

島にも届いた布マスクですが、持て余しているので寄附したいところの要望がありました。

そこで、社協で布マスクを受け付け、島内の必要とされる方へ再配布したいと考えています。「マスクは足りている」「布マスクを手作りしている」などで配布された布マスク(新品・未開封)がお手元にありましたら、社協までお持ちください。よろしくお願いたします。

※社協第2事務所(町役場入り口信号前)でも受け付けています。

日本キリスト教海外医療協力会

社協では、アジアや、アフリカの保健医療協力者の活動をしている日本キリスト教海外医療協力会に送る使用済み切手や外国コインを集めています。

切手は使用済み切手収集家の方々に換金してもらい、外国コインはおよそキロあたり1,200円くらいの換金額になります。換金したお金は国際保健医療協力のために使われます。

外国コイン
約23kg

バングラデシュで理学療法技術や理論を学ぶ研修費用相当になります

使用済み切手
約22,000枚

ウガンダで助産師学校の1か月の学費相当になります

ランドセルを送りました

社協では、公益財団法人ジョイセフが行っている「思い出のランドセルギフト」の活動に協力しています。

「じゃまご」5月号でランドセルの寄附をお願いしたところ、

6個のランドセルと、新品の学用品の寄附を頂き、公益財団法人ジョイセフへ送りました。



貧困のため、子どもの就学に同意しなかった親たちが、子どもたちに日本から送られたランドセルを背負わせて勉強させてあげたいという気持ちが芽生えました。

アフガニスタンの子どもたち、特に教育の機会に恵まれない女の子の就学に役立てられます。送られたランドセルは、その第一歩を踏み出すためのきっかけ作りに役立っています。

思い出がたくさん詰まった大切なランドセルのご寄附ありがとうございました。(菊池里美)